

授業デザインと コーチングのありか

札幌学院大学

森 直久

コーチングってよくわかりませんが

教えず、気づかせるコミュニケーション

教えられた(=足りない)

ではなく、

気づいた(=できるじゃん)

と思わせる

相互扶助

私もできる

勝手に学ぶ

の実現かな？

私の授業実践

全学共通科目「心理学」

臨床心理学科必修

社会福祉士課程、精神保健福祉士課程指定科目

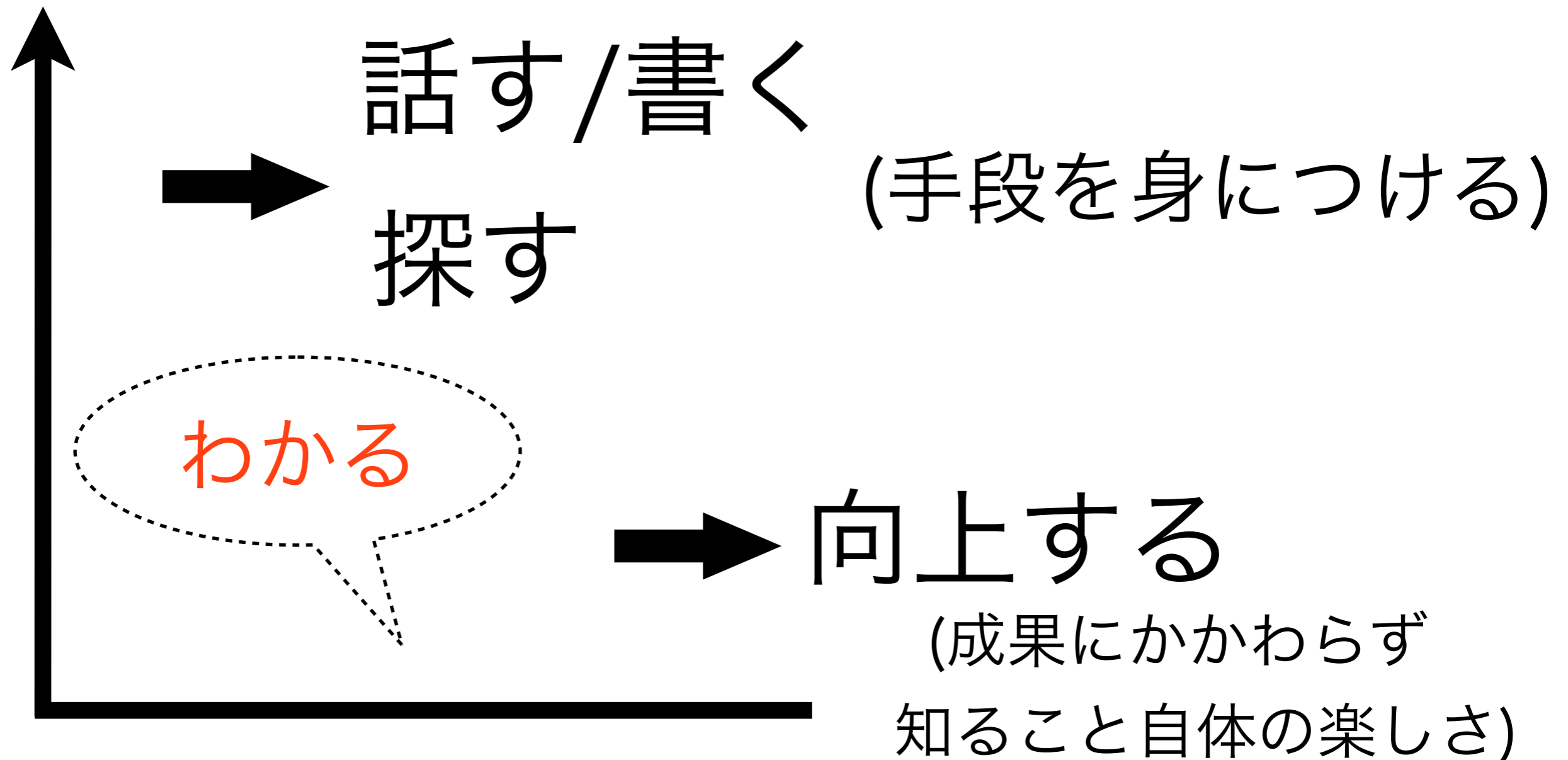
[授業の概要]

- 1年前期 (初学者、大学初心者)
- 学科必修 (落とせない)
- 資格課程指定科目
(内容の縛りあり)
- 大人数 (140人。実質120人)

[授業の目的]

(この逆の現状からスタート.....)

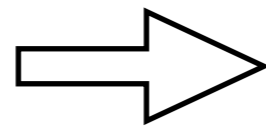
自らすすんで (意欲を持つ)



[教員側の制約]

誰でもできるように

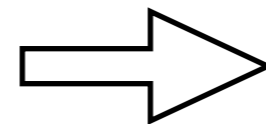
- ・ 楽に
- ・ 低労力
- ・ 低予算



「スーパー教員」を前提にしない仕組みに
コストをかけず、すぐ実行できる

受講生全員に

- ・ 全員の単位取得
- ・ 同一教室で、かつ差別化



「選ばれし者」にしない
学生の能力に応じて役割を変える
→ ピアサポートの体制づくり

[実践例]

初回授業のみ

- ・ ノートの取り方

コーネル大学式ノート

マインドマップ

第2回 心は脳なのか

今回のポイント

- ① 心脳同一説がかかえる難点を説明できる
- ② 「自分には心がある」と考えるもとなる自己意識がどう発生するかがわかる

1. 心脳同一説への反論

心脳同一説とは、「心とは、それを生み出す脳状態そのものである」という(つまり心は脳にあるという)見解です。もう少し詳しく言うと、「心と呼んでいるものは脳状態である」(心は仮の存在でその本性は脳)という見解です。

化学的・生理学的反応の連鎖である脳活動が、心の正体だということですね。本当でしょうか。

心(頭)を使う様々な活動を行なうとき、脳の特定の部位が活性化(血液が集まる)ことはよく知られています。そのようなデータに依拠して、「○○という心の活動はxxという部位によって行なわれている」というようなことが言われます。最近の脳研究が蓄積しているのは、こういう対応関係です。

これだけ聞かされると、「心は脳である(脳にある)」と思いたくもなるかも知れません。心脳同一説は、やはり正しいのではないと思いたくもなります。

「外見上同じであれば、機械の動きと心が働いていることを同じと見てよいのか」という疑問を発したのが、ジョン・サールという哲学者です。彼は「中国語の部屋」という思考実験(想像上でシミュレーションしてみる実験)を考えだしました。元来「人工知能は考えているか(プログラムに従うことが考えることと同じか)」という疑問に対する解答ですが、心脳同一説に対する批判として読むこともできると思います。

「中国語の部屋」とは？

英語から中国語への完全翻訳マニュアルがおいてある部屋があるとします。そこには中国語のわからない英国人がいます。彼の仕事は、部屋に送り込まれる英語の文章を、マニュアルに従って中国語に変換し、部屋の外に送り出すことです。外から見ていると、この部屋は、首尾よく翻訳を行なっているように見えます。しかし、機械的な組み替えをしているこの人は考えていると言えるでしょうか。機械的に脳が動くことと心が働くことが同一だと言うならば(「機能

左側のスペース

「突っ込み」

メタ認知

「わからん」「面白い」
「あとで調べよう」 etc.

下1/4スペース

要約用

デカルト

心脳平行説
心脳相互作用説

茂木健一郎

心脳同一説

内容

対立

支持者?

内容

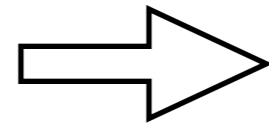
心を認める

「心とは脳の活動に等しい」

・ 質問の述べ方

正しい日本語で

論理構造を意識して



伝わらないと意味がない

まず考えてみる、調べてみる

「～とは何ですか」

「～とはxxということでしょうか」

「～とはxxということでしょうか。○○を調べてみましたが、△△という理由で結論が出ませんでした。」

・意見の述べ方

「意見」

最初に述べることで、続く文章が理解し易くなる。

+ 「理由」

自分の意見が「聞くに値する」ことが示される。

+ 「実例」

反証するなら実例は一つ(少数)。一般化するなら、
特殊事例でないことを示す。

～と思います。なぜなら～。たとえば(実際に).....

継続的取り組み (全てメールを活用)

・質問

文章の問題は返信して添削

内容については問わず →9回目あたりから注文

よさに応じて1~10点を加算

あえて「適当」に回答 →「情報提供」へ

締切あり(木曜授業、翌月曜正午締切)

- 情報提供

回答への訂正、追加

授業内容への不可

締切なし

- 「今日の一句」 「今日のおすすめ」

・ ツイッターの使用

授業中につぶやかせる

→教卓のPCでモニタ 授業に反映

「発言」の代替

→学生相互の会話が発生

疑似グループ学習

授業後にやり取りする

→ちょっとした質疑応答

テスト間近のつぶやき

→励ます、おちよくる

たまたま疑似グループの発生

• 動画オンデマンド配信 (U-stream配信も検討中)

授業を録画し、ポータルから視聴可能にする

→ 欠席者への対応

復習時(テスト前)の活用

副産物として、「静かになる」

学外からはFacebook経由で視聴可能

→ 自宅での学習

みんなで見とおちよくる = 学外グループ学習へ

遠征先からの授業参加

・ Facebookの活用

「秘密グループ」の設定

→登録者のみ読める、書ける、見られる

「バーチャル学習室」

いずれはこことメールの二本立てで

→匿名性を担保する場所が必要

評価に敏感な学生用

[問題]

- ・ 期間がある程度必要

マインドセットやスキルを獲得する前に、評価(期末テスト)が来てしまう。

→できない自分の再自覚、動機づけ低下(元の木阿弥)

ほめてばかりももらえない

初年次科目は通年に(or 後期だけに)

- ・ 効果査定の方法

成果と変化の指標を特定する

印象評定だけでなく、客観的指標を

THANK YOU!